

授業科目名 (講義題目)	国際経営			開講学期	前期
				曜日時限	金曜 I 限
				単位数	2
担当教員名	佐藤 亜希子	講義コード	科目区分	対象学生	
		26176012	選択	1年生 / 2年生	
開講予定日	①4/10 ②4/17 ③4/24 ④5/1 ⑤5/15 ⑥5/22 ⑦5/29 ⑧6/5 ⑨6/12 ⑩6/19 ⑪6/26 ⑫7/3 ⑬7/10 ⑭7/17 ⑮7/24				
履修条件	特になし	キーワード	国際経営、国際ビジネス、戦略経営、グローバル戦略、多国籍企業、新興国市場（エマージング・マーケット）、制度問題、制度コスト、本社と現地法人の関係性、現地子会社マネジメント		
全体の教育目標	国際経営 / 国際ビジネスに関する必要な理論やフレームワークを理解し、ケーススタディやグループワークを介して理解を深める。	個別の学習目業	学んだ理論やフレームワークを実務レベルで意思決定 / 実行が可能な理解レベルを目標とする。またグループワークを通じて学生同士で課題に対する実践的な相互理解を深める。		

授業の概要	<p>QBSが目指す国際的に活躍できるプロフェッショナルを育成する為に、国際経営 / 国際ビジネスに関する必要な理論やフレームワークを講義を通じて理解し、ケーススタディやグループワークを介して実践的な理解を深める。受講後は実務において国際的プロフェッショナルとして活躍することが期待される。</p> <p>※全体の理解度、習熟度、ゲストスピーカーの招へい（未定）に応じて講義内容の順番の前後や、内容の変更はありうる。</p> <p>※使用するケース教材は事前に教員が指定するので、学生自身が各自で購入し使用すること。</p> <p>※受講を希望・検討する学生は、コースの概要や進め方について詳細に説明するので、必ず初回の講義（4月14日）に出席のこと。</p> <p>※グループ・プレゼンテーション全てにチームメンバーとして貢献できることを強く推奨する。</p> <p>※業務の都合で調整が必要な場合には、必ずチームメンバーと事前に相談し了解を得ること。</p>				
授業の最新情報 案内方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州大学Moodle</li> <li>・QBSインフォメーションボード（website）</li> </ul>				
授業形態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義・演習</li> <li>・グループワーク</li> <li>・プレゼンテーション</li> </ul>	使用する教材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スライド資料（電子媒体）</li> <li>・ケース（電子媒体）</li> <li>・テキスト（紙媒体）</li> </ul>		
授業の進め方	理論やフレームワークを理解するための講義と、理解した内容を実践的に落とし込むケーススタディを基にしたグループ・プレゼンテーションを柱として進めていく。				

<p><b>教科書及び参考図書</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多国籍企業論 -概念・理論・影響- (阪南大学翻訳叢書 29) 単行本 (ソフトカバー) 同文館出版 (2021/3/20) グラツィア・イエットギリエス (著), 井上 博 (翻訳) ・[新版] 企業戦略論【上】 単行本 (2021/12/8) ジェイ B.バーニー 著/ウィリアム S.ヘスタリー 著/岡田 正大 訳</li> <li>・[新版]企業戦略論【下】 単行本 ジェイ B.バーニー 著/ウィリアム S.ヘスタリー 著/岡田正大 訳 ダイヤモンド社 発行年月：2021年12月</li> <li>・使用するケーススタディは講師より授業内で通達し、必要に応じて学生自身が別途購入すること。</li> </ul>
<p><b>試験・成績評価の方法等</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内ディスカッションへの貢献：<b>20%</b></li> <li>・グループ・プレゼンテーション：<b>60%</b> (各グループ・プレゼンテーションに<b>20ポイント満点</b>×<b>3回</b>で、それぞれプレゼンテーション毎に配分)</li> <li>・最終レポート：<b>20%</b> (課題内容講義中に指示する)</li> </ul> <p>※グループ・プレゼンテーションの評価は、同一グループのメンバーは同一評価。  ※メンバーがプレゼンテーション中に欠席または遅刻で途中参加の場合も、メンバー全員が同一評価。  ※但し、グループワークのため、他のチームメンバーに負担がかかることを十分に理解し、進め方や役割分担はチームメンバーと事前によく相談すること。</p>